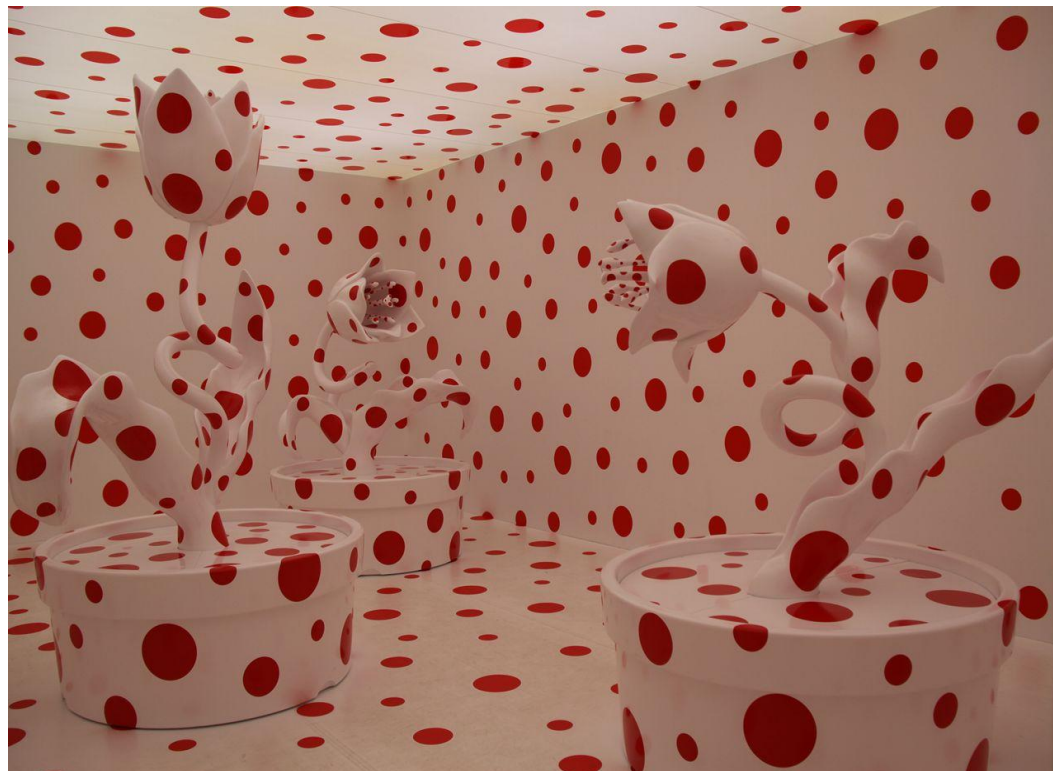


独立行政法人 **国立美術館**

Independent Administrative Institution National Museum of Art



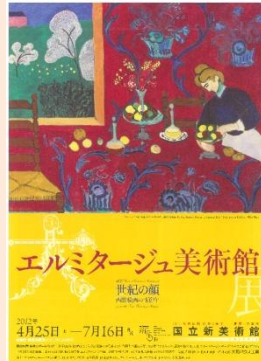
草間彌生 永遠の永遠の永遠 (国立国際美術館)

国立美術館が開催する展覧会

集客力の高い展覧会



ラファエロ展
(国立西洋美術館)



エルミタージュ美術館展
(国立新美術館)

先端的な展覧会



ARTIST FILE
(国立新美術館)

国内外で注目すべき活動を展開する現代作家を取り上げ、個展形式で紹介する展覧会

先導的な展覧会



草間彌生展
(国立国際美術館)

世界的にも評価されている草間芸術の魅力に迫った展覧会



ぬぐ絵画
(東京国立近代美術館)

今日も続く芸術かわいせつか論争の原点を明治から昭和のヌード絵画に探る日本初の展覧会
2012年「第24回倫雅美術奨励賞」受賞



手の痕跡
(国立西洋美術館)

ロダンとブールデルの作品を、ほとんどすべて所蔵作品により展示し、師弟である2人の作家を比較した展覧会

国際交流(海外での展覧会等)

平成24年度、文化庁、東京国立近代美術館、フィレンツェ国立美術館特別監督局主催(協力:京都国立近代美術館)で、イタリア・フィレンツェにあるピッティ宮殿において「日本のわざと美ー近現代工芸の精華」展を開催し、海外において人気が高い日本の工芸品の海外発信を行った。また、本展は、その後に国立西洋美術館において開催した「ラファエロ」の交換展としての意味を持ち、同展のための作品借用料等の低廉化にも寄与しており、企画展を実施する上での工夫を実現したものである。

入場者数等

開会式:約500人

展覧会:約27万人(ピッティ宮殿入場者を含む)



国立美術館における教育普及事業

14の夕べ[東京国立近代美術館]

展示場内等でパフォーマンスを実施するプログラムを14日間にわたって実施し、今まで美術館を訪れることの少なかった観客層が多く参加した。

Fun with Collection、ファン・デー [国立西洋美術館]

「Fun with Collection 2012 彫刻の魅力を探る」、「ファン・デー」の二つのプログラムを、企画展「手の痕跡 国立西洋美術館所蔵作品を中心としたロダンとブールデルの彫刻と素描」と連携させ、彫刻制作の技法を紹介する小企画展、技法に関連する創作プログラムなど、来館者に彫刻作品を楽しむ多くの機会を提供した。

そのほか、平成24年度実績として、講演会等を676回、児童生徒を対象とした事業を295回実施するなど、国立美術館各館それぞれが工夫したプログラムを実施し、美術に親しみを持ってもらうための取組を行っている。

課題1 必要な専門人材の person 費の確保

学芸員の主な業務

- ・展覧会開催のための調査研究
- ・展覧会の企画立案
- ・展示作品の出品交渉
- ・展覧会の広報
- ・会場設営・作品展示の管理
- ・講演会・シンポジウムの企画・運営
- ・所蔵作品の管理・貸出
- ・所蔵作品の保存修復
- ・教育普及(ボランティア・学校受入等) など

会場設営の管理



展覧会の企画立案



教育普及(美術教員等を対象とした研修事業)



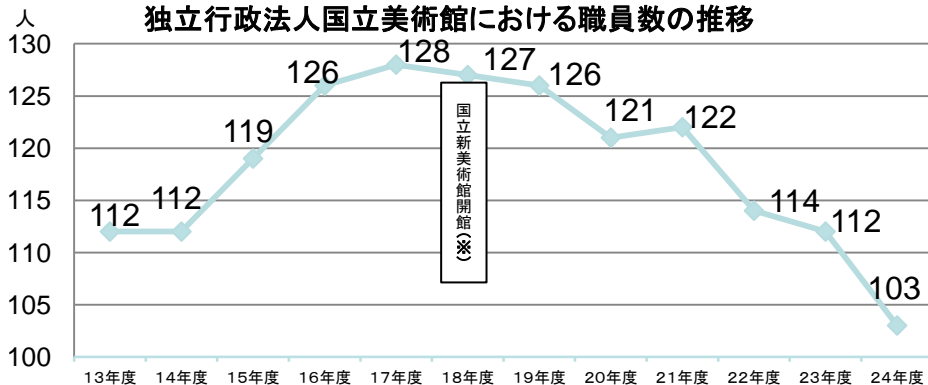
所蔵作品の保存修復



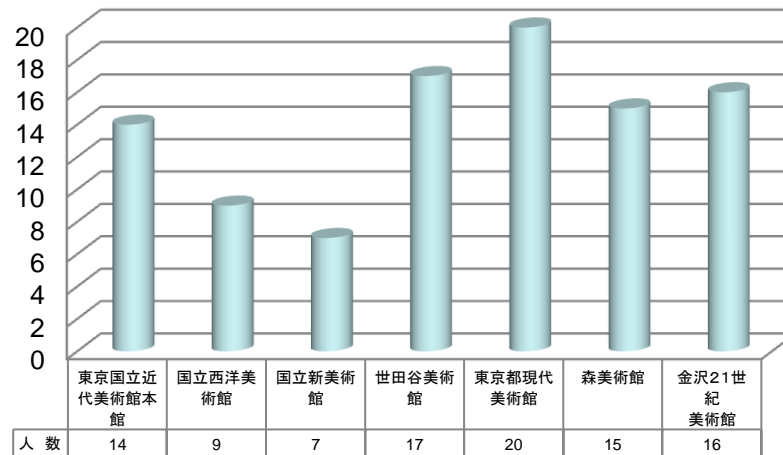
課題

- ・人件費削減により、最小限の人数で膨大な業務量をこなしているが、既に限界
- ・広報、教育普及の担当者がほとんどいない
- ・保存修復に関しては国立美術館に1人もいない

独立行政法人国立美術館における職員数の推移



国立美術館と国内の主な美術館との学芸員数比較



※2012年全国美術館会議会員館名簿より

課題2 適切な運営費交付金の確保

○運営費交付金の削減額

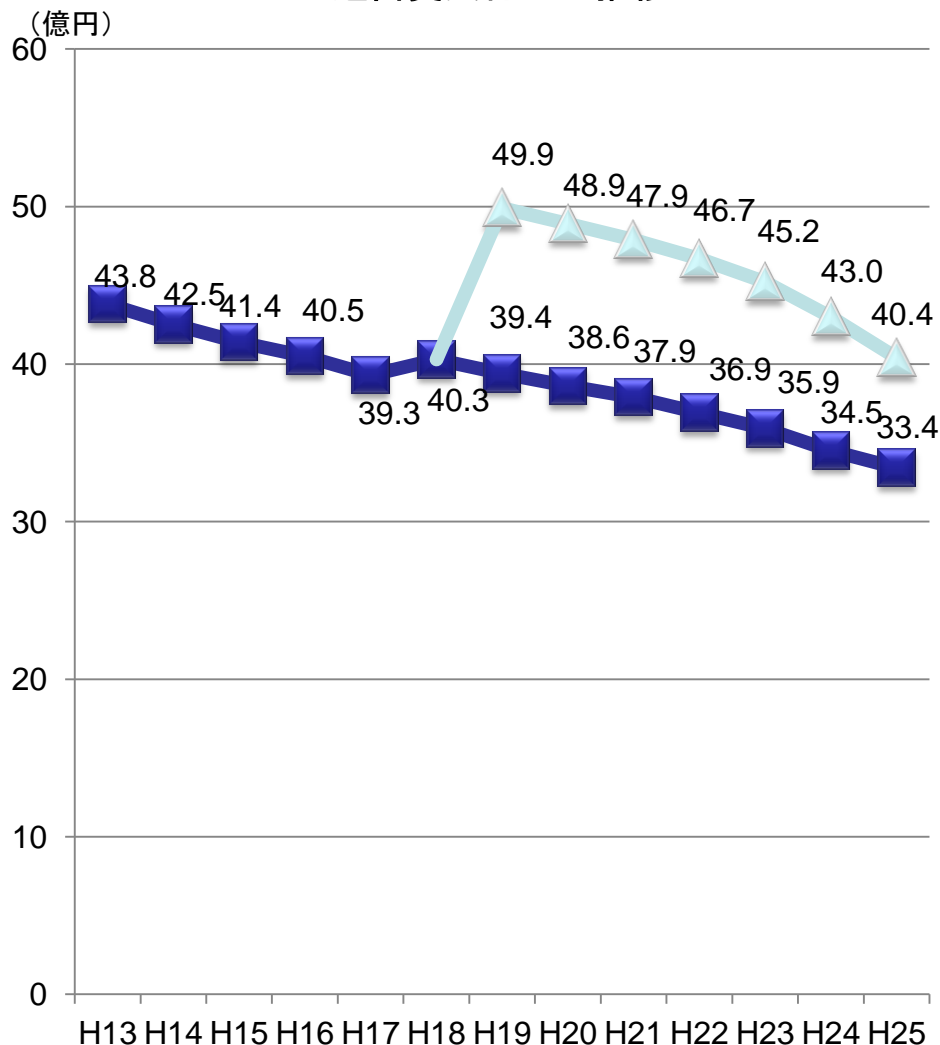
- 法人設立年度(平成13年度)から平成25年度まで(国立新美術館は除く。): **約10億円削減**
- 平成24年度～平成25年度: **2億6千万円削減**
 - 東京国立近代美術館(H24～H25): **3千8百万円**
 - 国立西洋美術館(H24～H25): **3千2百万円**

国内作品を中心に構成される展覧会開催経費1本分(約4千万円)の削減に相当

○運営費交付金削減の影響

- 国内遠隔地及び海外の重要作品展示見送りによる展覧会の質の低下
- 広報費削減による来館者数の減少
- チラシ・カタログ等の作成削減及び解説等英訳の削減による来館者サービスの低下
- 展示設営費の削減による展示作品の安全性及びディスプレイ効果の低下
- 看視員経費の削減による展示作品の安全性の低下
- 修復費削減による作品の保存への影響

運営費交付金の推移



※美術作品購入費等、特別に措置されたものを除く

■ 国立新美術館を除く4館
▲ 国立美術館全体

課題3 経営努力により獲得した利益の活用 自己収入増加の努力

○課題

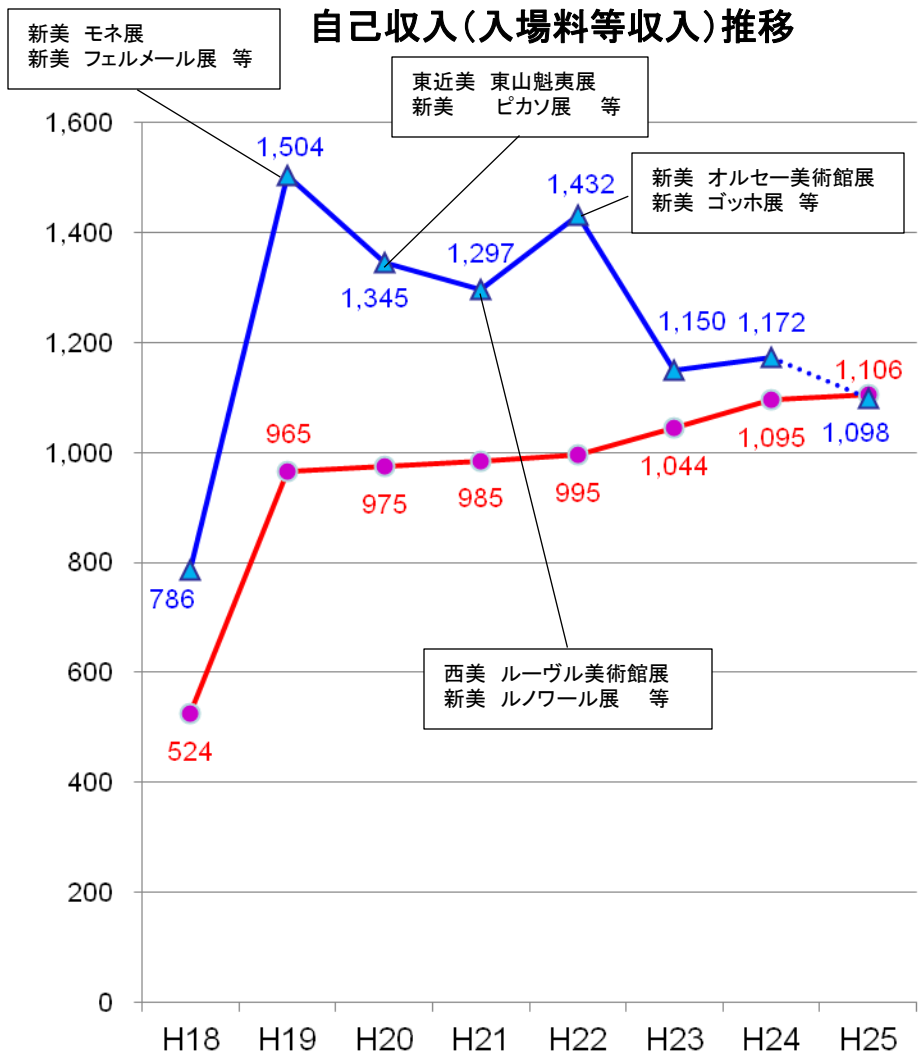
- ・第2期中期目標期間以降、目的積立金が全く認められていない。
- ・自己収入予算額(ノルマ)について、毎年1%以上の増加には無理がある。集客力の高い展覧会ばかりでないため、近年、自己収入ノルマの達成が困難となっている。

○解決策

- ・経営努力のインセンティブを働かせるためにも、目的積立金を活用できるようにする。
- ・自己収入を増加させるため、良質な展覧会の開催・効果的な広報による入場料収入増加、他機関・大学・他業種との協力、資源(収蔵品、施設、資料)の活用、寄附金等の外部資金獲得に向けた努力・工夫を引き続き行う。

○利益の活用

- ・展覧会の充実(展示作品の充実、広報の充実など)
- ・来館者サービスの向上(館内の外国語案内表示の充実、レストラン等施設の向上 など)
- ・美術作品購入費の充実
- ・老朽化対応のための施設・設備の充実



※年度決算に基づく自己収入額(寄附金収入は含まない)。
※H25自己収入は見込額

● 予算額 ▲ 決算額